発刊にあたって

プロジェクト顧問　木立 英行（大阪教育大学理事）

教員は、教育の専門家として教科の指導方法に自信を持たなければなりませんが、そのためには長い実践経験と深い考察との両方が必要です。ことに、実技を伴う教科の指導力を養うには実践の場に身を置く必要がありますが、その場合は指導者に恵まれる必要があります。研修機会は様々に提供されてはいますが、忙しい教職にある身では、自分にあった指導者に出会うことすら容易ではありません。

大阪教育大学は、インターネットや DVD 等の新しい媒体を活用して教科の指導方法や教材を作成し、学外の方々の利用に供することを始めました。まず、音楽教育講座から、『合唱指導法』を提供させていただきます。

この教材は、公開講座での実地指導、文章による理論的な説明と一体となって、本学の音楽教育講座寺尾　正教授の合唱の指導法を表すものです。

是非とも、本編を現職の先生や関心のある方々に役立てていただくことをお願いするとともに、皆様のご批判や改善への提案、ご要望をいただき、今後予定している続編や本編の改訂に活かすとともに、実践現場にある方々のお考えを踏まえた、より良い教科教育の教育と研究に役立てさせていただきたいと考えております。

教材をデジタル化する意味

プロジェクトスーパーバイザー　田中 龍三（大阪教育大学教授）

このデジタル教材は、本学の「次世代を育てる全領域デジタル教材の展開」プロジェクトの一環として作成された教材です。教材をデジタル化する目的はいろいろありますが、この教材では、音楽活動の基礎的な能力となる知覚・感受の活動がよりよく行われるために、音楽の作られ方と音楽の感じや雰囲気の関係を分かりやく示すことや、実際に行われる音楽授業の場面を想定し、子どもの授業への集中が保てるよう、学習のねらいに適した箇所を、ストレス無く瞬時に提示することなどをデジタルの特性を生かして実現することを目的としています。

つまり、この教材をもちいることで、コーラスでカノンの課題に取り組む際、メロディーの重ね方や歌い方の変化に伴って、音楽の感じや雰囲気が変わっていくことに気づくことで、自分の気分や気持の変化、または高まりを楽しみながら、さまざまなカノンが歌える技能を身に付けることをめざしているのです。

本学音楽教育講座では、今後も地域の先生方と連携をしながら、音楽科授業の改善をめざした、さまざまなデジタル教材の開発を進めていきたいと考えています。今後、新たに開発するデジタル教材が学校現場のニーズに応えられるものとなるためにも、このデジタル教材を実際に授業で使っていただき、忌憚のないご意見をお寄せいただきたいと存じます。

Copyright © Osaka Kyoiku University. All Rights Reserved.

Concept

「音楽の授業をうけもつことになったけれど、何をしていいのかわからない・・・」
「教科書に載っている合唱曲をやってみたけど、うまくいかない・・・」
「子どもたちが、楽しく、さらに上手に歌うためにはどんな練習をしたらいいの・・・？」

この音楽科授業改善のためのデジタルコンテンツ【誰にもできるステップアップ教材】は、そのような壁にぶつかったときに、ひとつのアドヴァイスになることを目的とした教材です。音楽の専門教育を受けていなくても、ピアノが上手でなくても、子どもの歌唱の基礎力を高めることができます。さらに、子どもに身近なわらべうたを中心に据えることによって、それに伴った動きや手遊びなどをとおして、聴く耳を育て、歌いあう喜びを育む助けとなります。この教材を子どもと共に使う前にぜひ、先生方が実際に歌い、手遊びを体験してみてください。

● わらべうた ―――――――――――――――――――――――――――― 小島 律子（大阪教育大学教授）

わらべうたは日本語から生まれたものであり、日本の音楽の源です。しかも、わらべうたでは、音楽がしゃべり言葉と生活でのからだの動きと一体となって存在しています。日本語を母語とする私たちの身体に染み付いた音楽性をもったものといえます。だから、だれでもわらべうたは苦もなく歌えます。実は、わらべうたで子どもたちが遊びに興じて無意識にやっていることを取り出して、音楽の世界へ連れて行くことができるのです。たとえばちょっとずらして歌い始めればカノンになります。そこに、はやしことばを繰り返せば、ふしに伴奏がつくように音楽に厚みがでてきます。わらべうたはシンプルな素材だけに、いろいろな料理法が使えます。そんなことをして楽しんでいると、音程もしっかりし、リズムもめりはりをもって、声も出てきます。音楽的な能力が育っていくのです。

ただ忘れてはならないのは、わらべうたは遊びだということです。わらべうたでうんと遊んだことがなければ、単なるうたになってしまいます。わらべうたで遊ぶことでひとのかかわりを経験し、わらべうたを歌うことが楽しくなるのです。

● コーラス ―――――――――――――――――――― プロジェクト代表　寺尾 正（大阪教育大学教授）

うたは人間の心の内にある喜び、悲しみ、怒り、祈り、愛などを声に表し、聴く人に訴えるものです。ましてや、コーラスは多くの人と共にうたい合い、その思いを共有するという集団行為です。うまく演奏できた時のメンバーで分かち合う喜びには格別なものがあります。

しかし、コーラスを練習する多くの場面で、更なる上達を望んでいるにもかかわらずなかなか思うに任せない現実があります。ここで心に留めなければならないのは、うまくいかない場合、必ず原因があるということです。うたう人も指導する人もその原因が見つけられないのです。

この初回のコーラス編では、シンプルで取り組みやすいカノン（輪唱）の課題を取り上げます。カノンの良さは、各声部が同等の立場でその程度に応じて声部を増やしたり減らしたりしながら練習できることです。これらのささやかな課題の中に、合唱技能の基礎を養成する最も重要なポイントが隠されています。注意深く取り組めば必ずリズムの躍動、美しい響きの輝きを見つけられるでしょう。

また、この教材はシリーズ化し、視聴者・利用者皆様のご意見をもとに新たな問題（不足点・困難なこと）を焦点化し、それに対応したヴァージョンアップした教材を配信していきたいと考えています。さらに教材に沿った公開講座を行ったり、実際にこの教材を実践された利用者への取材をお願いしたり、学生を中心としたスタッフが実際に学校現場等に出向いてのアウトリーチ演奏等も企画していく予定です。

Copyright © Osaka Kyoiku University. All Rights Reserved.